

## 平成21年度地域会議の開催状況等について

## 凡例【主な開催内容】

○：事業説明等、◇：支援金や木育事業の選定、◎：実施状況報告、■：現地調査

区分	委員数	既 報 告 分	既 報 告 分	今 回 報 告
県民会議	10名	第1回県民会議 (6月12日)	第2回県民会議 (10月27日)	第3回県民会議 (3月11日)
佐久 地域会議	8名	第1回 6月10日開催 ○、◇	第2回 11月16日開催 ◎、■	第3回 2月22日開催 ○、◎
上小 地域会議	8名	第1回 6月24日開催 ○、◇	第2回 11月14日開催 ◎、■	第3回 3月17日開催 ○、◎
諏訪 地域会議	7名	第1回 6月19日開催 ○、◇	第2回 11月6日開催 ◎、■	第3回 3月16日開催 ○、◎
上伊那 地域会議	9名	第1回 6月26日開催 ○、◇	第2回 10月7日開催 ◎、■	第3回 2月9日開催 ○、◎
南信州 地域会議	10名	第1回 6月15日開催 ○、◇	第2回 12月1日開催 ◎、■	第3回 3月5日開催 ○、◎
木曾 地域会議	9名	第1回 6月8日開催 ○、◇	第2回 11月19日開催 ◎、■	第3回 3月8日開催 ○、◎
松本 地域会議	8名	第1回 6月29日開催 ○、◇	第2回 11月5日開催 ◎、■	第3回 3月2日開催 ○、◎
大北 地域会議	11名	第1回 6月2日開催 ○、◇	第2回 10月6日開催 ◎、■	第3回 3月19日開催 ○、◎
長野 地域会議	7名		第1回 10月13日開催 ◎、■	第2回 3月9日開催 ○、◎
北信 地域会議	8名	第1回 7月14日開催 ○、◇	第2回 1月15日開催 ◎、■	第3回 3月15日開催 ○、◎
計	85名	9会議	10会議	10会議

## 平成22年度地域会議の開催状況等について

### 凡例【主な開催内容】

○：事業説明等、◇：支援金や木育事業の選定、◎：実施状況報告、■：現地調査

区分	委員数	今回報告		
県民会議	11名	第1回県民会議 (7月6日)		
佐久 地域会議	8名	第1回 7月15日開催 ○、◇		
上小 地域会議	8名	第1回 7月21日開催 ○、◇		
諏訪 地域会議	7名	第1回 6月22日開催 ○、◇		
上伊那 地域会議	10名	第1回 7月1日開催 ○、◇		
南信州 地域会議	10名	第1回 6月16日開催 ○、◇		
木曾 地域会議	9名	第1回 6月29日開催 ○、◇		
松本 地域会議	9名	第1回 6月16日開催 ○、◇		
大北 地域会議	10名	第1回 6月16日開催 ○、◇		
長野 地域会議	7名	第1回 9月24日開催 ○、◇		
北信 地域会議	8名	第1回 6月16日開催 ○、◇		
計	86名	9会議		

## みんなで支える森林づくり地域会議における意見の要旨について (平成22年2月～3月及び平成22年6月～7月開催分)

### 集約化に関すること

- ・ 集約化を進めるには、地域、行政、事業体などが一体とならなければ進まない。
- ・ 地域で森林づくりを考えて、地域の人が集約化を行わないと進まない。

### 森林整備に関すること

- ・ 搬出間伐について、森林資源の有効利用の点からも森林税の対象にして欲しい。
- ・ 間伐の面積を増加するだけでは無く、間伐による質の向上が必要だ。
- ・ 保育が手遅れとなっている森林は、間伐するよりも皆伐して植栽する方が良い。
- ・ 里山にある広葉樹林の整備にも森林税を活用して欲しい。

### 森林税の普及啓発に関すること

- ・ 森林税の活用について様々な方法でPRが必要。(どこに使われたかわからない)
- ・ 地域会議だけではなく、県民へのアンケートで森林税の意見を集約することが必要。

### 木材利用に関すること

- ・ 森林税で木材加工施設にも補助を出して地域材利用のサイクルが必要。
- ・ 間伐材の地産地消の仕組みづくりが必要。
- ・ 未利用材の利活用を進めることも必要。

### 野生鳥獣対策に関すること

- ・ 緩衝帯整備後の維持管理に対する助成が必要。
- ・ 野生鳥獣対策からも人工林の針広混交林化を進めて欲しい。

### 人材育成に関すること

- ・ 森林税を使って山で働く人が山村で暮らせる仕組みづくりが必要。
- ・ 森林所有者などに提案ができるプランナーの育成は大切。

### 施策に関すること

- ・ 同じような名前の事業があり、一般県民には内容がわかり難い。
- ・ 税事業をできれば5年間ではなく引き続き継続して欲しい。

### 森林環境教育に関すること

- ・ 大人に対する森林環境教育が必要で、木工教室などから関心を高める必要がある。
- ・ 子供達に山の大切さや木の重要性と貴重な資源ということを教える必要がある。

# 地域会議開催状況

(注)・各会議の委員は、順不同・敬称略で記載。

・主な意見については発言順で、質疑関係は除いて記載した。

平成 22 年 2 月 22 日 (月) **第3回 佐久地域会議** (佐久地方事務所)

## 会議事項

- 1 森林整備進捗状況について
- 2 H21 実績 H22 計画について
- 3 意見交換

## 【出席委員：7名】

井出 興生	佐久林業経営者協会 副会長
井出 玄明	北相木村長
岩下 一平	臼田高校 環境緑地科教諭
小林 弘道	長野県経営者協会 佐久支部長
田中弓美子	南佐久消費者の会 副会長
古越 修	佐久森林組合 参事
渡辺 正美	佐久林業士会
麻生 知子	NPO 法人 信州そまびとクラブ
山下 昌秀	

## 【主な意見】

○ みんなで支える里山整備事業は、切捨間伐が対象となるが、“切捨て”に対する所有者の反応と、搬出できる山をあえて切捨にするような場合はあるか知りたい。

⇒ 事業の主旨に合う27年生の山を間伐しようとした際、周囲の40年生位の森林も一緒に間伐事業を行ったが、「手入れしていない山を間伐してくれるのか。」という反応で、切捨てに対する意見はなかった。

リーマンショック以降材価が下がり、搬出間伐が厳しくなっている。

○ 景気に左右されにくい、材価が低い場合にも対応できる利用間伐の補助制度が必要ではないか。

⇒ 平成22年度は、木材の搬出に対する補助の予算案が計上されており、2月県議会で議案となっている。

○ 搬出率が低くてもよい搬出間伐など中間的な事業はできないか。

⇒ 現在の森林造成事業では、搬出間伐は80%以上搬出が基準となっているが、国が自給率50%を目指していることを考えると、中間的な搬出率も必要となると考えられるので、このような意見があったことを、県庁や国に伝えたい。

○ 昨年末に農水省が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すとしている。森林の育成期間は極めて長く、急激な変化への対応が難しい部分もあるので、長期的にじっくり取り組んでもらいたい。

⇒ 御意見として伺う。

○ 千曲川源流に行った際、源流が大変小さいことに生徒が驚いていた。CO<sub>2</sub>対策にばかり目が行ってしまうが、森林と水との関係についても、認識していく必要があると感じた。



**【会議事項】**

- 1 H21森林税活用事業実績
- 2 H22森林税活用事業計画
- 3 森林税活用事業への提言等
- 4 意見交換

**【出席委員：9名】**

植木 達人 信州大学農学部 教授  
唐木 一直 南箕輪村長  
竹松 杉人 南福地森林整備委員会 委員長  
平澤 照雄 平澤林産（有） 代表取締役  
松岡 みどり KOA森林塾  
宮崎 美和子 県女性農業委員の会 上伊那支部  
宮島 洋子 伊那商工会議所 創業塾卒業生  
森 敏彦 上伊那森林組合 参事  
山浦 速夫 県経営者協会 上伊那支部

**【主な意見】**

- 集約化事業について、地域の気運が盛り上がっているので予算措置について出来る限り拡大してもらいたい。
- 森林づくり県民税事業が2年間経過し、広報や地域での森林整備の実施などを通じて県民の間でも理解が進みつつある。
- 次の世代の若者や子供達の木に対する関心が薄れているような気がするので、木育事業についても対象者を幅広くして対応してもらいたい。
- 現在の間伐も重要だが、森林林業は長い目で見なければ育たないので、その点に力をいれてもいいのでは。
- 間伐材の搬出については、作業道などの開設による低コスト化の推進と林業の労働対策をセットでやらなければ進まない。

**【会議事項】**

- 1 H21 森林税活用事業実績
- 2 H22 森林税活用事業計画
- 3 意見交換

**【出席委員：10名】**

- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 遠藤 寛子 | 飯伊森林組合総務課指導企画担当      |
| 大蔵 実  | 伊那谷の森で家を作る会代表        |
| 沢柳 俊之 | 地域ぐるみ環境 I S O 研究会事務局 |
| 寺岡 義治 | 森林環境インストラクター講師       |
| 平栗 雅代 | 飯田エフエム放送(株)パーソナリティー  |
| 村澤 崇  | 林業家                  |
| 矢澤由美子 | 県地球温暖化防止活動推進員        |
| 山田 庄治 | 下伊那郡町村会事務局長          |
| 小澤 千亮 | 飯伊木材協同組合 理事長         |
| 小林 正春 | 南信州広域連合 事務局長         |

**【主な意見】**

（委員）

○森林づくり推進支援金の内容を精査するには、写真が非常にわかりやすいです。写真を、最初と最後、良く精査して、最高の物を1枚ずつ載せてもらえればと思います。是非写真を載せるよう、義務付け出来ないか。

○山間部の天龍村の林道ですが、昔はマイクロバスで入れなかった道が、最近森林税によって手入れされ、入る事ができるようになり、地域の方を案内する事ができ、地域の人達への啓発的な意味も大きいですから、今後も進めてもらいたいと思います。

○森林づくり推進支援金ですので、竹林の整備ですが、竹チップの活用をどうするのか、方向付けをする事により竹林の整備の方策も考えられるので、検討頂ければと思います。

○森林づくり推進支援金事業の選定基準の意見の反映の欄に、「森林税の使途が納税者にわかりやすく伝わる事業」である事とありますが、わかりやすく伝わる事業は何かと、難しいと思いました。

○間伐材の利用が大切だと感じました。食育は、食べ物を大切にすることから生まれたように、捨てられる木がもったいないから木育という言葉が出てきたようですので、木育推進事業で山に目を向けること、木を使うことが大切だと思います。

○天龍村のツキノワグマの被害状況を調査したところ、80%位枯れている山林もありました。この対策として、知事が来村した際にウィリーという熊よけの商品がありますが、高価ですから補助事業の採択にと知事にお問い合わせしたら検討すると言われました。熊の被害は甚大です。ウィリーも大体3～4年で駄目になりますから、今は、波トタンで熊対策に利用しようと思います。

○初年度に比較して市町村から事業が人々の暮らしの中に入って来て、より具体的な事業となっています。例えば竹林の整備により、地域の皆さんの安全や安心が、この事業を使って確保できたことにより、地域の方から大変喜ばれたのではないかと感じましたし、又、森林での広い地域の環境や、災害時の安全もこの事業で確保されているのだと感じています。委員の皆さんから、雇用の確保や高度間伐技術者の育成、間伐材の利用による地域材の流通で、経済にも繋がっているのだと感じ、幅広いと改めて思いました。

○地域の人達に、森林税が色々な事業に使われているのだという事を認識してもらうこと

が大事だと思いました。特に、道路沿いで森林税を使った事業には森林税を使って事業を行ったと地域の大勢の人達にわかる。簡潔な看板を設置してもらえればPR になると思います。

○林業施策が軽んじられていると思いました。林業が産業として成り立たなくなっているのではないのでしょうか。輸入材にも関税を掛ける等、国産材を守ることも施策の一つではないのでしょうか。

○昔は、無節の柱で住宅を建てるのがざい沢で森林所有者も枝打ちをして、無節材を生産してきましたが、今の住宅では、柱に節があっても当たり前になってきており、森林所有者も柱に対する考え方が変わってきたのは残念です。

○森林税を使って、森林整備をした場所には簡単な統一看板を立ててもらえれば、地域の人達にも分かると思います。

## 平成 22 年 3 月 8 日 (月) **第3回 木曽地域会議** (木曽地方事務所)

### 【会議事項】

- 1 H21 森林税活用事業実績
- 2 H22 森林税活用事業計画
- 3 意見交換

### 【出席委員：7名】

- |        |                      |
|--------|----------------------|
| 浦沢 英一  | 木曽郡森林組合長会長 (木曽森林組合長) |
| 大橋けい子  | 上松町特産品開発センター利用組合 組合長 |
| 黒田仁左衛門 | 木曽団体有林連絡協議会 会長       |
| 柴原 秀満  | 木曽木材工業協同組合 理事長       |
| 羽根 正熹  | 大桑村殿地区郷土の森整備組合 組合長   |
| 深澤 衿子  | 木曽すんき研究会 副会長         |
| 松越 勝人  | 元王滝村産業課長             |
| 田上 正男  | 上松町長                 |

### 【主な意見】

○みんなで支える里山整備事業実施状況を写真で見ると山が非常に綺麗に見えるが落葉樹を全て伐ると肥料が無くなってしまふので、そこまで綺麗にしてしまっているのか疑問を感じる。

事務局 広葉樹林はつるが非常に多く隣の木に繋がって絡んでいると全て伐らないと倒れてこないようなこともあり(整備を)やるとすれば全て伐らなくてはならないところもある。極力有用広葉樹や地域で重要な樹種は残す方法をとっているがそれぞれの現地で考えていく必要がある。

○緩衝帯整備は補助が単年度限りで終わってしまうため、翌年には草が再び繁茂してしまう。緩衝帯整備で日当たりが良くなり草が伸びてくるため草刈作業にも補助金を出してもらわなければ困る。

○大桑村での破砕機導入の計画が出たが以前デモ機を使って破砕した粉を最近、掘り起こしてみたら中は発酵して腐っていた。これを牛糞などと混ぜていい堆肥に出来ないかと思い、和牛を飼っている人に話をしているがこういう取組みに対する研究資金はでないか。

○間伐をしたことによりすいてきた林を熊が皮を剥いてしまうという声を聞き、間伐と剥皮被害防止事業を併行して実施した方が良いのではないかという話も出ている。又、間伐した付近の木が被害に遭うという話も聞くので事業の進め方が今後の課題になると思う。被害の多いところは地元と調整をし、面積だけでなく効果的手法をとっていただきたい。

○地域の山を地域の山としての意識づけることも大事だし、間伐を推進していかなければいけない。大規模な皆伐は環境に与えるダメージが非常に大きいので何とか効率よい間伐をして行くということが大事である。

○個人の山の木を直送される事が一番怖いので地域に土場を作って仕分けを行い、B材だけを送るという仕組みづくりが重要である。

○大規模合板工場の参入で木材価格上昇が期待される反面、皆伐で大量の木材が伐られ木曾谷の木は5～6年でなくなってしまうのではないかと、そうなれば30年～40年くらい山は丸裸状態になってしまう恐れがある。

平成 22 年 3 月 2 日 (火) **第3回 松本地域会議** (松本地方事務所)

**【会議事項】**

- 1 H21 森林税活用事業実績
- 2 H22 森林税活用事業計画
- 3 意見交換

**【出席委員：7名】**

- |       |                 |
|-------|-----------------|
| 大月 公男 | 安曇野市商工会事務局長     |
| 大月 國晴 | 松本林業士会会長        |
| 菅原 聰  | 信州大学名誉教授        |
| 滝沢 和子 | 松本市消費者団体連絡協議会長  |
| 西村いそ子 | 松本フォレストレディクラブ会長 |
| 若林 茂孝 | 森林所有者           |
| 増田 富重 | 松本広域森林組合参事      |

**【主な意見】**

○みんなで支える里山整備事業について、当初の間伐計画面積以上を実行できたことは評価できます。問題はやり易いところから実行したのではないかとということ。次第に集約化などが難しいところになるのではないかと心配があります。

○間伐面積は伸びるほどよいと思います。ただ、作業の内容が植林したところの間伐だけでなく、周りの雑木も作業できるようにしていただくとよい。

○用材としてお金になるところは出さなければいけないです。出せないところは仕方ないです。

○伐った材を放置しておくとも虫が食ったりして、山が荒れるのではないかと。伐った木は搬出して山をきれいにしないとイケない。搬出することについてもう少し考えないと。

○里山集約化事業について、森林所有者にもっとPRしなければならない。集約化は、地域に住んでいる人がやるのが一番よい。

○集約化を進めるに当たって、地域の人々に協力してもらってシステムを作らなければいけない。地域の人と、市町村、地方事務所、森林組合などが一緒になってやっていくシステムが必要だ。

○森林組合として、山持ちの方に少しでも現金が入るようにしたいが、木材市況が悪すぎます。

○伐採経費等を下げて、売る努力をする必要がある。

- 前回の現地調査で、木材を地場で何とか使おうと努力されているところを見て、もっと工夫していけば使っていけるのではないかと感じた。
- 森林税で、間伐材を出すときに赤字になるようなところへ補填するような仕組みはできないか。
- みんなで支える里山整備事業で実施した森林は、20年間伐ってはいけないという協定になっています。森林の利用価値はまったく落ちてしまう。税の使い方が矛盾していると感じます。
- 今の間伐の考え方の根底には、長伐期で大径材を生産するという考え方がある。20年間は伐らないということですが、中には短伐期でよい山もある訳で、一律に長伐期で対応しようということに疑問がある。
- 高度間伐技術者集団育成事業に関連して、森林組合はこの地域の林業技術のプロとして、中心となってもらわないと困る。
- 今後、補助金でやっていく林業はできなくなるのではないか。森林組合としても稼げる仕組みをつくらないといけない。
- 地域の中には、退職してもまだ元気に働ける人が結構な数いますので、そういう人たちに、森林税などを活用して働いてもらうようなことを考えていけたらと思う。地域で仕事ができる人間を生かす方向で、取り組んでいかなければならない。
- 森林税で、山に働く人たちが賃金を得ることができるようなシステムをつくらなければいけない。山で働く人はその人なりの所得があつて、みんながその人に山を任せるというシステムを作りたい。山で働く人がいなくなったら、山は荒れてしまいます。山で働く人を維持していくことが大きな課題だ。
- 都会から来た人たちが、イベントで小さな木を伐って楽しむことはよいことかもしれないが、実際の間伐などの作業は技術がないとできない。中途半端にはできないことである。
- 松本地域の場合、いわゆる林業地ではない。だいたい山村の人々が生業でやってきた。今後、林業地域としてやっていくのか。山で働く人がちゃんとやっていけるシステムづくりを考えていかなければならない。
- 技術者の育成では、特に道づくりなどでは非常に重要だ。
- 森林税の大きな柱は人づくりだ。森林の仕事は専門家でないとできない。
- 森林づくり推進支援金について、市町村では松枯れ対策を中心にやっているところがある。これからは一歩進んで、松茸の発生などを目指して、若いアカマツ林を作ることもいいのではないか。いずれにしても、市町村に任せることはお願いしてやっていただくということである。
- 木育推進事業について、子供たちが木工品を作ったが、このようなことは大人にも広めていったらよいと思う。森林税を納めている大人にも、その恩恵がほしいと考えた。大人が作ってみたいというようなことにも広げられたら、材の活用にもなる。
- 木育推進事業でこれから広がるのが、里山地域活用型ではないか。山に木があつて、その木を伐って、その地域の人が加工して、そして子供が使う。子供たちは、その工程すべてを学ぶ訳です。これはすごくよい事だ。木育はすべてこの形でやってもらったらよい。
- 松本市奈川では、地元「学有林」の木材で、地元小学校の書庫などを作る事業を実施している。地域に密着して木材の資源を活用する方法としてよいことだ。また、朝日村でも学校の机、椅子を制作するというので、同じような取組が進んでいる。
- 林業総合センターで実施している木工教室は、定員の何倍も申し込みがあり盛況です。この森林税の事業を使って、大人の一般の人たちも、木工教室などを通じて、木材を使っ

てもらいたい。

○提案として、間伐を減らしてでも、その予算（木工教室のような事業）を増やしたらどうですかという話はいかが。

○今、間伐だけやればよいのか。地域に住む人々にとって、材を売らなければいけない。材がある程度売れたら、それなりにその人は体力が付くのではないか。そういうことも考えたらどうか。今後の3年はそういう方向でやっていくのがいいのではないかなということが希望です。

○見える、分かり易い森林税の使い方ということでは、間伐した場所へ行かないとなかなかわからない。製品というか、形となって表れてくると見えてきて、それで納得できると思われる。ただ、どういう形にするかということは難しい。

○平成22年度森林税の予算について、集約化事業はもっと拡充して、間伐面積をそれほど増やさなくていいのではないかという感じがする。集約化事業である程度のとりのまとめをやっていった方がいいのではないか。集約化事業というものをもっと増やすことはできないのか。

○集約化ということにもっと重点を置くということ、もう一つは技術者の養成、人づくりです。人づくりのやり方は難しいですが、森林税の場合、人づくり、体制づくりが無いから、次へ続いていかない。森林税がある間に、組織と人だけは作っておきたいという感じだ。

○今の森林所有者は高齢化が進んでいて、そのような人たちに山仕事をしなさいというのは酷なことです。そういう状況の地域が多いのではないか。

○地域の多くの方が自分の山を手入れしたいと思っています。自分の技術に合ったレベルでやればよいのですが、危ない仕事ですので、そのところが難しいです。それでは若い人といっても、1年位やったらすぐできるという仕事でもないの、そのところに、システム、制度があればフォローできるかもしれません。

○基本的に森林所有者が林業技術を持てばよいのですが、林業をやりたいという方は、技術を持たない方が多い。

○森林税の5年という根拠はどこから出てきたのか知りたい。森林税は5年と言わずにずっと続けていただきたい。森林税でずっと支援していかないと、山づくりのうまい循環ができていかない。

○5年間できっちりやって、あとの2回目も続くような状況にしておかないといけない。これから3年間はものすごく大切な時期だ。

○作業道の整備をスムーズにやることによって伐出経費を下げられれば、間伐材は生きる。

○道が整備できれば、間伐の促進にもなり、間伐材の活用にも結び付く。材を搬出していくには、どうしてもこれを優先してやっていかないといけない。

○松本地域の場合は人工林、天然林など全体の森林を見ていかなければいけない。用材を作る山、松茸のような特用林産物を作る山、水源のための山、災害を防止するための山、野生鳥獣に対抗しなければならない山、観光地としての山もある。多目的な山づくりをしなければならない。

○地域の工務店が地域の材を使うときに、一定の補助が出るというようなことまでやっていかないと、伐った材は放って置くしかない。

○お金に換える山がないと、地域はよくなるのではないか。お金になる山はお金にしようではありませんか。このことを基本に考えたい。

○2年位前の木材価格に比べたら、現在は立法メートル当たり3千円位の値下がりです。現場から市場までの運搬経費に相当する分が値下がりしてしまいました。

- ホームセンターで売っているスギ材が、地域材の同じものに比べて何分の1かの値段で販売されています。あのようなものはどういう方法で生産、販売されているのか。
- 経営を合理化していかなければならないということは、林業に課せられた大きな課題だ。そのためには、機械化は避けられない。もう一つは、ある程度、集落ごとに経営していくという方向に変わって行かざるをえない。経営については、今まで安易に考え過ぎていたかもしれない。
- バイオマス燃料は木材を多く使えると思う。
- この地域ではアカマツが多くあるので、松茸による振興も検討できる。
- この地域では、地産地消で、地域で採れた木材はここで使うというシステムをなんとかして造らなければいけない。
- 雑木山の施業も考えた方がよい。広葉樹の山も造成の目標としていいのではないか。
- 間伐は、木材生産のときに大径材を採るために有利なやり方である。景色をよくするためとか、防災のためにどうやるか、はっきりしていない。
- 手遅れ林分は、間伐するより皆伐した方がいいのではないか。
- 補助事業で間伐をやれば、その決まりにあったやり方をしないと補助対象にならない。だから、強い間伐になり易いのではないか。
- 25年から35年生までの間に間伐してない山というのは、樹冠が小さくなって成長する力を無くしてしまっています。今は手遅れ林分が多い気がします。
- 山に苗を植えて、保育して、間伐して、そして市場に持って行くという流れがあります。間伐はその一部に過ぎない。
- 家を建てるときには、無垢の木よりも集成材などの方が多く使われる。そのようなときに大径材を作ってどうするのか。
- 間伐面積を増やただけで山が良くなるというのは、ちょっと乱暴ではないか。もっと質的なことが要る。
- カラマツ材を、国や県で公共的な施設に優先的に使っていただきたい。
- 木が売れたら山は勝手に良くなるというのは違うのか。
- 山の魅力はきのこを出すこと。松林をきれいにすれば、何年かすると松茸が出てくることも期待できる。理屈ではなく「ずく」がいる。ただ、「ずく」だけあっても他人の山へは入れない。森林税で団地化して手入れに結び付けて、健全な山を作るしかない。
- 人と自然を結びつけるという大きな仕事が山にある。それを何とかして生かしていきたい。
- 地域の活動は、余暇を楽しんでやれる人が集まればいい。先立つものだけ計算しては、なかなかうまくいかない。
- 地域の材を使ったものが地元で作られはじめたら、次に、それを地域の外に売っていけるようなシステムを考えていくと、地域が伸びていけるのではないか。
- 地域の部分的な消費はよいですが、木材の量はごく僅かなものだ。大量の木材製品が今の価格より上乗せして出ていかないと、どうにもならない。
- 木材産業は、コストだけではなくて、品質ということについてもある程度加味する必要がある。木材供給のやり方、木材市場への木材の出し方は、まだまだ工夫できる。
- 山の問題は明確な答えはないが、住民も行政なども何とかしてやっていかなければいけない。それがこの地域をよくする基本である。山が良くなれば、この地域も良くなるということですから、そういう方向になるよう、みんなで考えていきたい。 \_

**【会議事項】****【出席委員：10名】**

1 信州の森林づくり A P 実施状況	浅見 昌敏	大北木材協同組合理事長
2 H21 森林税活用事業実績	荒山 雅行	荒山林業
3 H22 森林税活用事業計画	香山 由人	大北地方林業研究グループ会長
4 意見交換	川上 起源	大北地区林業経営者協会副会長
	郷津喜久代	柵池高原観光協会会長
	菅沢 広人	長畑森林整備協議会会長
	傳刀 明	大町温泉郷観光協会事務局長
	平林きわ子	大町市商工会議所婦人部会長
	嶺村 和徳	大北森林組合代表理事組合長
	山内香代子	遊企画代表

**【主な意見】**

○アクションプランに向け団地化を進めている。面積は目標を達成しているが、切捨て間伐が多く木材生産につながっていない。

大北管内は、今まで間伐が遅れていたため品質の悪い材が多いが、間伐を推進して良質な木材を供給できる場所もあるので、活用を考えていただきたい。

品質が悪い材でも、チップ加工や燃料などへ活用も可能であるので、面積だけでなく資源として利活用を推進する必要がある。

○間伐材が木材として供給されそれを利用し、消費者として使うという仕組みづくりを検討してほしい。公共事業を行う際、地域の材を使用する仕組みづくりも必要と考えられる。地域の間伐材が、地域の木材として目に見える形での P R が必要と思います。

○工務店の仕事もないので、間伐材利用は難しい状況です。一昔前は、全ての材を活用できたが、現在では難しい状態です。

○この地域会議のメンバーを公募して増やすことは出来ないだろうか。多くの方に、意見を言う場を与えてほしい。

○現在の森林・林業施策は、先進地を延ばす施策となっている。大北地域のような、切捨て間伐がメインとなっている地域は政策的に取り残されると危惧される。

地域の特性に合わせた予算づくりが必要となる。アクションプランの数字だけ見ると大北地域は進んでいるように見えるが、いままで手入れがされていなかった所の手入れが進んだだけであり、アクションプランの後半は、計画量確保が困難になると推測される。

○森林整備の関係で地域の取りまとめを行いました。自分の山が何処にあるかわからない人が多い。自分の山が分かるように親から子へ伝えることが重要。実際問題として、山への期待が無い人が多いので管理が進まない、そこが課題と思う。

○地域の資源である森林をどうやって盛り上げていくかということは重要な問題で、この地域会議は、県民会議と同程度の重要性があると思います。そういう意味からも、森林税の活用についてもっと P R していくことが必要です。ホームページでの P R を行っていますが、この地域では、ホームページを見る人が少ないので、P R 効果が低いと思いますので、色々な方法での P R を検討する必要があります。その一つの方法として、この地域会

議の委員に、森林林業と関係のないジャンルでこの地域で活躍されている方を委員として入れるという方法があると思います。

○観光関係の立場から意見を言わせていただくと、森林整備は観光に取って非常にありがたいことです。ただし、これは森林税という限られた予算の中で整備されたものであり、将来にわたって観光業を営む者が森林整備に関りを持つ方法を模索して行く事が重要だと思います。

○森林整備により、野生鳥獣との棲み分けが進み住民が安心できるようになった。間伐が進み大北管内が綺麗になって有難いが、作業道が少ないのでなかなか利活用が進まない。木材利用率を上げるために、更に機械化を進めるなどして行きたい。地域の良質な材が生産できるように森林税の有効活用を更に推進していただきたい。

○この地域の森林・林業をどう持っていくかを、地域材の利活用という問題も含めながら、多方面の分野から構成されている地域会議委員での議論を更に進める事が重要であると思いました。

○一般の県民は、この地域会議の内容を知らないと思うので、アンケートなどで意見を集約することが必要だと思います。信州大学の教育学部と連携し林業再生という観点で環境学習につなげることで、将来的に先生になる立場の方に森林・林業の重要性をPRしていくことも重要と考えられます。

○小谷村の柵池でウッドチップコースができて、新たな観光資源として大変ありがたいところです。しかし、山歩きに来る人は野バラやタラの芽を楽しみにしていた人もいたが全て伐られてしまったので、事前に綿密な協議がなされればもう少しいい結果になったかと思いました。森林整備が進み見通しが良くなって、観光客が野生鳥獣を多く見れるようになった。そこからの弊害もあり、カモシカに遭遇し危険はないが怖いというような意見も出てきた。これからどのように注意喚起をするかが課題となります。

そのようなことを踏まえ、これからは地元との調整を綿密に行ったうえで実施していただきたいと思いました。

○価値がないものが売れる事が一番ありがたい。山で伐採したものを捨てないで全て利活用できればありがたい。そういう面からみれば“ペレット”は非常に期待が持てます。先行きが不安ですが、木材加工の再生ということで、大いに期待しているところです。また、公共施設での、木造建築が非常に少なくなってきたことに残念な気持ちあります。

**【会議事項】**

- 1 H21 森林税活用事業実績
- 2 H22 森林税活用事業計画
- 3 H22 林業関係予算
- 4 意見交換

**【出席委員：7名】**

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| 宮崎 正毅  | NPO 法人北信州の森林と家をつなぐ会 |
| 桑原 重雄  | 栄村森林組合長             |
| 笹岡 洋一  | 指導林家                |
| 高森 壽實夫 | 北信州森林組合副組合長         |
| 竹節 義孝  | 山ノ内町長               |
| 竹節 高四郎 | 自然公園指導員             |
| 山崎 義雄  | 瑞穂地区有害対策協議会長        |

**【主な意見】**

- 川下側から見ると、森林整備は進んでいるが材がでてこない。低質材な多く材が出てこないかもしれないが、このような材も搬出し、利用できるものに活用させていきたい。
  - 小学校、中学校、高校も含め、壁材の木質化は子供たち・生徒たちに非常に良い環境になる。木質化することによって情操教育に大きな効果があると先生たちも認識している。木材を使って子供たちの情操教育に役立てるため、積極的に導入願いたい。
  - 木島平村3 小学校の統合に伴い、間伐・搬出・製材・乾燥とそれぞれの行程を生徒たちに体験してもらった。木に関りを持ち、木に触れ合うことにより木の良さを実感してもらうことが必要である。子供たちが木に触れ合う場所を広域的に提供する必要がある。木の良さを子供たちに伝える必要があり、学校のカリキュラムに是非時間をとってもらいたい。
  - 漁協関係者の間では、「魚を守るには水を守る」、「水を守るには木を守る」、「木を守るには森を守る」、「森を守るには山を守る」が合言葉となっている。
- 混交林が昨今話題となっているが、混交林施業について県民税を是非投入して施業技術を研究し、子孫のため将来を見据えた「新しい森林づくり」、「新しい山づくり」を是非行い未来の森林づくりに力をいれてほしい。
- 県民税を活用した里山整備が2年間から始まり色々な面から効果が上がっている。間伐された山は成長が早まる。この間伐材の搬出・活用について施策の展開をお願いする。

(以上、平成 22 年 2 月から平成 22 年 3 月に開催された 7 地域会議・7 回分)

# 地域会議開催状況

(注) ○各会議の委員は、順不同○敬称略で記載。

○主な意見については発言順で、質疑関係は除いて記載した。

平成 22 年 7 月 15 日 (月) **第1回 佐久地域会議** (佐久地方事務所)

## 【出席委員：8名】

井出 玄明 北相木村長 (佐久森林林業振興会長)  
中沢 修 南佐久中部森林組合参事  
柳沢 俊彦 佐久林業経営者協会副会長  
水石 公夫 佐久林業士会長  
由井 正隆 佐久商工会連合会長  
木内 良枝 佐久市消費者問題協議会長  
橋詰 元良 NPO 法人浅間山麓国際自然学校事務局長  
花岡 秀樹 長野県理知小海高等学校教諭

## 【会議事項】

- 1 長野県森林づくり県民税の概要について
- 2 森林整備 (間伐) の進捗状況について
- 3 平成21年度事業実績及び平成22年度事業計画について
- 4 新たな森林づくり指針の基本的な考え方等について

## 【主な意見】

- 現在、森林整備は、間伐を中心に進められているが、林業の目的は主伐 (皆伐) であり、主伐⇒植林⇒育林のサイクルが行われてこそ、「業」として循環していく。
- 間伐の次の林業はどうなるか、という中長期的視点に立ち、今後10年間位で、間伐から主伐への誘導も考え、計画的な主伐、植林、育林を考えていくべきだと思うが、いかがか。
- ⇒ 県下の森林の林齢構成を見ると、40～50年生の山に大きく偏っているのが現状。委員御指摘のとおり、間伐に主伐も交えて行い、スムーズな木材資源循環が生まれるためにも、林齢の平準化は必要。木材価格の下落、搬出コストがかかる、といった悪条件の中、いかに利益をあげ、次の植林、育林に繋げるか、が大きな課題であるが、御指摘の点については、今後取り組むべきものであると考える。
- 林業経営からの視点では、やはり「業」として成り立ち、それを持続させていきたいという思いが強い。用材以外、例えばチップがそれなりの価格で売れば何とかなるが、現状では採算が取れず、続かないのが現実である。
- 最近20年ぐらい林業の主伐をあまり見たことが無い。木材価格が安価で推移していることが影響していると言えるが、やはり、木材利用促進がポイントである。バイオマスエネルギーへの活用、薪利用も含めて幅広く利用促進をしていかなければならないと思う。軽井沢町では貯木場を設け、別荘地などから出た木材を集め、薪などに利用できる仕組みを作り、好評である。こうした事例もヒントになるのではないか。
- 育林に際し、ササの繁茂が作業を著しく阻害している。ササの繁茂が強烈な所は、入山すら困難で、間伐等の作業が出来ない。
- ササが優勢になると、植栽しても更新困難となり、立木の無い山になってしまう恐れがあ

る。水源林でもあり農薬など使えない。何か支援策を考えていただきたい。

⇒ ササについては同感であり、今後、補助対象となるよう要望したい。

○授業の中で生徒に地元の森林についてなど多面的に勉強してもらっている。生徒は「自分の地元の昔はすごい」と誇りすら感じているようである。

私を含め生徒も間伐材の利用は大事「切り捨て間伐はもったいない」と感じている。

当校には薪ストーブが入った。ペレットストーブも欲しいと思っている。こうしたものを高校生の時に目の当たりにするかしないかでは20~30年後の考え方が全然違ってくると思う。木材利用を進めることから、主伐、植林、育林の流れが生きてくると思う。

○木材利用促進のため、公共建築に県産材をもっと使うよう力を入れるべきと思うが。

⇒ 現在、国も施策を考えており、その制度等を活用しながら県産材の利用拡大を推進したい。

○野生鳥獣、特にニホンジカによる農林業被害額、捕獲頭数は並々ならぬ数字と感じている。森林に対する、ニホンジカ被害はどうか。ニホンジカが森林に及ぼす影響について注視しながら、適切な対策を講じていくことが必要であると思うが。

⇒ 植栽木の食害の他、樹幹の角擦りや、食害が出始めているので、被害対策に努力してまいりたい。

○自然や森林そのものを学ぶことも大切だが、それに加えて身近な自然の力をわたしたちの生活に活かし、うまく付き合っていくことの大切さを学ぶ機会を、将来を担う世代に提供していくことも大切であると考えている。

こうした視点から「間伐材利用の環モデル事業」を見ると、この取り組みは、森林と生活の繋がりを知るための事例として参考になるので、今後も環を広げていってもらいたいと思う。

## 平成 22 年 6 月 22 日（火） **第1回 諏訪地域会議** （諏訪地方事務所）

### 【出席委員：9名】

細川 忠国 諏訪木材協同組合長  
浜 裕幸 長野県生産森林組合等団体有林連絡協議会諏訪支部長  
小平 榮三 諏訪森林組合理事  
山田 勝文 諏訪市長  
野口 行敏 長野県経営者協会諏訪支部支部長代行  
大木 広子 消費生活みずうみ会会長  
大井 明弘 特定非営利活動法人エコラ倶楽部

### 【会議事項】

- 1 平成21年度事業実績について
- 2 平成22年度事業について
- 3 委員の改選について
- 4 その他

### 【主な意見】

○国で現在検討している森林林業再生プランとの整合性は。

- 間伐を実施しているが、災害防止に効果がある。切捨て間伐は、2次災害を引き起こすとともに景観も悪い。搬出経費を考えていただきたい。木を片付け、そして搬出して活かすことが大事。急傾斜地の山の管理では、実生の木をどうするかが問題。
- 今までチップ、パルプとして低質材を使っていたのだが、今はできなくなった。行政が横の連携をとって間伐材が使われる対策を検討してもらいたい。
- 子供の時から山がどれだけ大切かを教育していかなければ山の大事さがわからない。山にどんどん入って、山に愛着をもってもらいたい。
- もう少し体系だって説明してもらいたい。全体像のイメージをもって県民に説明する必要がある。県民は、ちぐはぐなイメージで森林税を捉えている。
- これだけ災害が起きて、被害を受けた者の立場からすれば、もっと山に手を入れなければと思う。山に入らなくなって、山がわからなくなっている。災害が起きてはじめて分かった部分がある。
- 柴刈りをしている人がいなくなった。10年、100年を見据えて考えることは大事だと思う。山を見ていける人づくりをしていかないと。
- 将来的には、個人の所有に対して、強制的に整備するような制度を考えないとどうにもならない、シカが里まで降りてきて、シカの害が激しくなっている。

平成 22 年 7 月 1 日 (木)    **第1回 上伊那地域会議**    (上伊那地方事務所)

**【出席委員：10名】**

- |        |                |
|--------|----------------|
| 植木 達人  | 信州大学 農学部 教授    |
| 鎌倉 清治  | 飯島町 産業振興課長     |
| 竹松 杉人  | 南福地森林整備委員会 委員長 |
| 高山 美鈴  | (株) ウッドレックス    |
| 橋本 けさち | 介護士            |
| 辻井 俊恵  | 長野県建築士会上伊那支部理事 |
| 石神 守雄  | 登美屋建設(株) 代取締役  |
| 森 敏彦   | 上伊那森林組合 参事     |
| 木平 英一  | (株) ディーエルディー   |
| 古畑 愛   | おもちゃコンサルタント    |

**【会議事項】**

- 1 上伊那の森林・林業及び長野県森林づくり県民税の概要
- 2 上伊那地域における長野県森林づくり県民税活用事業の実績
- 3 上伊那地域における平成22年度長野県森林づくり県民税活用事業の計画
- 4 意見交換

**【主な意見】**

- 間伐の搬出について、今の森林税では対象となっていないが、森林資源の有効利用の点

からも是非対象にしてもらいたい。

- 間伐材を搬出するという事は、森林整備を進める上で大きな推進の力になる。
- イメージしていたより、切り捨てら山に放置している切間伐材が多い。
- 同じような名の事業があり、一般県民には内容が分かりにくい。
- 今年度は、森林税活用事業での間伐予定量が増えているが、地域全体での要望に対してできるだけ行き渡るように森林整備を進めて欲しい。
- 森林づくり推進支援金は、市町村で企画しているがもっと住民の希望を取り上げるようにして欲しい。

## 平成 22 年 6 月 16 日（水） **第 1 回 南信州地域会議** （下伊那地方事務所）

### 【出席委員：10 名】

遠藤 寛子	飯伊森林組合 総務課 指導担当
大蔵 実	伊那谷の森で家を作る会 代表
小澤 千亮	飯伊木材協同組合 理事長
沢柳 俊之	地域ぐるみ環境 ISO 研究会 事務局
寺岡 義治	森林環境インストラクター
平栗 雅代	飯田エフエム放送（株）パーソナリティー
村松 千代美	林業家（元林研グループ会長）
矢澤由美子	長野県地球温暖化防止活動推進員
伊坪 薫	南信州広域連合事務局長
山田 庄治	下伊那町村会事務局長

### 【会議事項】

- 1 現地調査
- 2 平成 20・21 年度長野県森林づくり県民税活用事業の概要について
- 3 平成 22 年度長野県森林づくり県民税活用事業の事業計画について

### 【主な意見】

- 現場を見たりする中で、この事業に対する理解が大変深まってきたと感じました。指針の中へ、水を使う企業を取り入れて山に関心を持ってもらえれば面白いことができるかなと思いました。
- 3 年間この会議に出ています。木育事業の項目を見るたびに、森林税だからもう少し違ったアイデアが出てきてもと思いました。飯田市の場合、事業費が一番たくさんあるにもかかわらず、メニューが少ないのが残念です。各自治会がまちづくり委員会に変わり個性的な考えを持ってきているので、森林づくりにもその考え方が出されればと思います。
- 所有山林はありますが、経営的な考えはまったくありませんが、間伐や枝打ちは必要なので自分で行い、行うことによって山の嬉しさを見つけ出してきました。
- 森林税を活用することによって暗かった森林に陽が射し、大変明るくなり手も入れることで地域が変わったという実感が生まれてきました。森林税を活用する事業は地域に与え

る影響・インパクトがとても大きいと感じました。今年度の木育推進事業の一番下に木育推進委員派遣という項目がありますが、お酒をつくるメーカーがよく「水育」という、‘水を育てる’という言葉を使って学校で水育事業を行っている企業があります。木育推進委員に地域の小・中学校の子どもたちが森林に関心を持つような授業や、山で実際にフィールドバックして遊ぶ、山の楽しみを広めていくことも大事だと感じました。

今年度、指針を改定する話では、森林・林業・地域が相互関係にあるなかで、真ん中にある林業をどう発展させていくべきかが大変大きな課題になっていますが、‘山を知る’ことから始めることで、地域の皆さんから意見が出ると思いますし、山でしっかりと生活できるような仕組み、今の時代にマッチしたプログラム作りが必要だと思いました。

○推進支援事業は啓発が大切だと思います。木育事業も啓発では大きいと思います。少ない予算で大きな効果を上げるということで木育推進事業を進めてきました。事業の案内看板が学校の入り口に立っていますから、父兄の皆さんにじっくり見ていただけたらと思います。喬木村の氏乗では、この事業も継続して行っており、見違えるような効果が出ています。大きな字を使った横断幕に事業名が記されていると、自動車を運転していてもこの事業が多くの方に知ってもらえて目に留まります。以前のように森林税を‘とられる’という発言が地域の人達から聞かれなくなりました。地域の人達に事業看板で話しをすると、この事業は続けて行くべきだと認識している人達が大勢います。啓発していくことで事業を地域の多くの人達に知ってもらうことだと思っています。

指針の改定では、効率的な林業という面では、30～40年の林業を推進してきて奥地まで一斉林が進んできています。中には間伐が出来なくて手遅れ林分となっている場所もあり、広葉樹が入り交じって混交林になっていますが、間伐をすることにより一斉林に戻してしまう場所が多いです。比較的少ない、安いコストで木材生産できる所は集中的に一斉造林へ、奥地の崩壊しやすいような山はできるだけ複層林、混交林にして間伐のときにも広葉樹を残しながら、植林木も伐採して行く作業が大切だと思います。

もう一つの問題点である鳥獣被害が拡大しています。奥地の森林に獣が住みやすい環境を作ることも林業の果たしている大きな役目だと思います。里山や果樹園で熊の被害を受けた際に檻を設置、捕獲したクマをお仕置きして奥地へ放獣しますが、何回もお仕置きされても里山へ出てくるその繰り返しです。

やはり、奥地にエサのない森林では当然の成り行きだと思いますので、奥地の混交林ということを念頭に事業を進めていただきたいと思います。

歩道整備の事業で間伐材を利用するのに、皮を付けたまま利用している事例がありますが、腐食等を進めないためにも皮を剥いて長くもたせる指導をお願いします。

○森林づくりに関する条例・指針・アクションプランの内の森林林業の指針は、100年後をめざす森林、当面の10年間でいう具体的な方策の考え方で今後改定をされていくことは、いい方向じゃないかなと思っています。

公園で考えていた事は、10、15年後に、この地域がどういうふうになるのかを遠望して、自然と森林との係りがどうなっていくか考えていました。

間伐は当面継続的にやらなければならない非常に大変な事業ではありますが、今は県下全体で年間4億円の森林税を使って、事業がある程度進んでいると思います。税がなくなった時、間伐が継続されるのかが非常に心配になりまして、継続される仕組みを作っていくことが大切だと思いました。

企業側にも大きな課題が2つあって、一つはCO2排出量の抑制という問題です。もう一つは生物多様性の保護です。委員から水を使う企業が関わると良いという事でしたが、確かあると思いますが生物多様性の保護は、私自身分かっていません。個人的には森林の恩

恵を授かっていることは確かですから、色々な方面で教育、PR をしていきたいと思っています。

- 子供達に山の大切さや木の重要性と貴重な資源ということを教えて行きたい。自分の育てた木に自信があり、この値段で売りたいと誇りを持っている林業家が管内にはいます。その中で我々製材加工者が山をどう活かして行くのか仕組み作りができればと思います。地域材が生かされて使われていくためにも、森林や木材が環境の面で大切だということを地域の皆さんに理解してもらうことが必要だと思います。
- 一般の方から森林税について頂く意見は、どこでやっているのか今どうなっているのか、どんな効果があったのかというように情報が少ない、行き届いていないと感じられます。一方で山主の皆さんからは山の手入れができない状況である為、森林税を使って整備して頂けるとありがたいという、今まで放置していた状況から一歩心が動いたのかなという様子が見られました。森林税をもって初めて、山は皆の山だという認識をもつことができたのではと思います。
- 森林は暮らしを守り、命を守る非常に大きな機能があります。林業の再生において地域材を使っていく事が一番大切なことだと思います。そして地域で森林づくりを皆なで考える、コミュニティ再生事業として意識していくべきだと思います。この事業は少ない費用で最大の効果を上げている仕事ではないでしょうか。
- 森林づくり推進支援金事業については、地区の人には森林税を使った事業だとわかりませんが、全体にまだ伝わっていないのではという意見が出ています。木育推進事業につきましても、当り前の事業しかない。皆が思っている単純な事を森林税を使って効果的にやっていると、人に訴えるところがあるのではと思います。又、林業というのは林業再生だけにとどまっているのではなく、同じ事をずっと昔からやってきて効果があるものと全く新しい目線で森林を見ていく必要があるものがあり、山は真剣に育てると同時に水も造ってくれるわけですから、水を使う企業が関わってくれるような森林づくりも考えて指針会議に是非あげていきたい意見だと思います。
- 間伐事業を実施したことにより歩道が塞がれたと森林所有者からの声がありました。歩道は森林を管理する上で大切な道ですから、作業の中では是非残してもらいたいです。
- 前回の視察で、上村の間伐の現場で間伐材が切り捨てのまま放置されていましたが、災害の発生源になるのではないですか。又、材の搬出は森林税ではだめなのでしょうか。
- 間伐材を切捨てのまま放置することは森林にとって良いのでしょうか。

**【出席委員：7名】**

浦沢 英一	木曾郡森林組合長会
下原 洋子	木曾林業女性ネットワーク
田上 正男	木曾郡町村長会
田中 淳司	指導林業士（田中木材社長）
半場 洋平	指導林家
深澤 衿子	木曾すんき研究会（木祖村村議）
古幡 和久	旧木曾福島林業振興会代表
松越 勝人	元王滝村産業課長
宮上 秋廣	木曾地区団体有林連絡協議会

**【会議事項】**

- 1 木曾地域会議の役割及び森林づくり県民税活用事業の紹介
- 2 森林づくり県民税の取組み状況について
- 3 意見交換

**【主な意見】**

- 木材価格が低迷している現在では、間伐をして搬出しても、地主○山主に還元できない状況にある。材価を上げれば補助金を利用しなくとも、山の整備が進み理想的な形になるのではないかと感じている。
- 間伐材の利用面から住宅建築を見ても、外材が多く使われ、国産の間伐材の利用は少ない。何とか国産の間伐材を利用した建築物が多く建てられればと感じる。特に公共的な建物には地元の地域材を優先的に利用してもらおう方向で進めていただければと感じている。
- 制度が始まり自分たちの身近な里山の整備が進むと、税が生かされているのかなと見える形で感じる事ができいいことだと思う。
- 地域のみなさんが出来ないことを、出来るように可能にして応援していただけることが、この税の良いところだとアピールしていただくと、各町村の取り組みもしやすく、民有林の整備に対する協力体制も違うと感じる。
- 制度について、冊子等で示していただくのはありがたいが、実際事業を進める中で問題点もあったと思う、そういった点はなかなか冊子には出ていない。問題点をはっきりさせることで、町村の取り組みの仕方や、県の動きと連携を取って進める大切さが、強調させていくべき制度として活用していただけないかと考えている。
- 出来るだけ多く木曾にこの事業を取り入れてほしい。税事業は県全体で取り組んでいるが、偏った形でない事業の配分をしてほしい。
- 山がきれいになっていく、里山がきれいになっていく信州のイメージが重要、これは観光にも結びついていく、今年度も事業を進める中で観光とも連携を図りながら進めてほしい。
- 所有者の高齢化が進み、自分ではなかなか整備ができないので、税事業の里山整備は好評である。できれば5年間ではなく引き続き事業を継続していただきたい。
- 奥山を国有林が伐採をし、ヒノキなどの優良材を搬出しているが、伐採後の山の整備が進まず、ほとんどがササ山になってしまっているのが現状である、雨季には災害が心配で

あり、国有林もお金をかけて山の整備をしていただきたい。

また、皆伐をして針葉樹を植え、ほとんど広葉樹が植えられていない、山の生態系の変化から、サルやイノシシ、クマが出没し、農業被害を与えている原因の一つと考える、そういう面についても考えてほしい。

- みんなで支える里山整備事業実施状況を写真で見ると山が非常に綺麗に見えるが落葉樹を全て伐ると肥料が無くなってしまうので、そこまで綺麗にしてしまっているのか疑問を感じる。
- 緩衝帯整備は補助が単年度限りで終わってしまうため、翌年には草が再び繁茂してしまう。緩衝帯整備で日当たりが良くなり草が伸びてくるため草刈作業にも補助金を出してもらわなければ困る。
- 大桑村での破砕機導入の計画が出たが以前デモ機を使って破砕した粉を最近、掘り起こしてみたら中は発酵して腐っていた。これを牛糞などと混ぜていい堆肥に出来ないかと思い、和牛を飼っている人に話をしているがこういう取組みに対する研究資金はでないか。
- 間伐をしたことによりすいてきた林を熊が皮を剥いてしまうという声を聞き、間伐と剥皮被害防止事業を併行して実施した方が良いのではないかという話も出ている。又、間伐した付近の木が被害に遭うという話も聞くので事業の進め方が今後の課題になると思う。被害の多いところは地元と調整をし、面積だけでなく効果的手法をとっていただきたい。
- 地域の山を地域の山としての意識づけることも大事だし、間伐を推進していかなければいけない。大規模な皆伐は環境に与えるダメージが非常に大きいので何とか効率よい間伐をして行くということが大事である。
- 個人の山の木を直送される事が一番怖いので地域に土場を作って仕分けを行い、B材だけを送るといった仕組みづくりが重要である。
- 大規模合板工場の参入で木材価格上昇が期待される反面、皆伐で大量の木材が伐られ木曾谷の木は5~6年でなくなってしまうのではないかと、そうなれば30年~40年くらい山は丸裸状態になってしまう恐れがある。

**【出席委員：7 名】**

飯森 紀元	筑北村長
江原 ヒサシ	松筑木材協同組合理事長
大月 公男	安曇野市商工会事務局長
滝沢 和子	松本市消費者団体連絡協議会長
中野 國光	松本林業士会副会長
西村 いそ子	松本フォレストレディクラブ会長
向井 清	松本広域森林組合代表理事組合長
若林 茂孝	森林所有者
佐藤 喜男	森林環境教育研究室代表

**【会議事項】**

- 1 長野県森林づくり県民税活用事業について
- 2 平成 22 年度森林づくり推進支援金について
- 3 長野県森林づくり指針の改定について
- 4 意見交換

**【主な意見】**

- みんなが手を携えて山を守っていくことを考え、地域で合意形成をして、山の整備を行っていったらよいのではないか。
- 森林づくり県民税活用事業としていろいろな事業を実施していることが、県民にどれだけ知られているのかなと疑問に感じる。
- 木育推進事業で実施している内容はわかりました。学校関係の木質化について、もう少し広範囲にできないか。できればもう少し幅広く、予算をうまく分けてやった方がよいのではないか。
- 子供たちが木に触れるということが大切だ。この地域の木を使ったものであるということを理解していただければ、大人になって、木造で家を建てるかもしれません。
- 戦後に植えた木を間伐して、有効に活かせるように、各地域で考えていけたらよい。間伐材の活用ということで、朝日村の事例のように、地域の木工所等を活用していくことはよいことだ。
- カラマツに限らず、地域材をどのように県民の皆様に利用していただけるかということ、工務店、木材屋さん、山持ちの方、それから、一般の方々を含めて考える必要がある。
- 学校教育における木育推進事業などの働きかけは大いに結構であるが、社会教育、公民館活動などの一環として、木育のような講座をつくる働きかけをされたい。
- 木育推進事業として、内装に木を使うというだけでなく、子供たちをはじめ親たちも学習する機会を設けてほしい。また、整備した木造の施設等を、地元の住民の方々にも見ってもらう取組を行えば、広く、多くの皆様に勉強していただける。
- 木育で整備した施設について、どこで育った木か、どのように加工されてできた製品なのかなど、分かり易く説明○宣伝することが大切である。
- 森林所有者などに提案ができるプランナーの育成のように、人を育てることは重要なこ

- とである。施業プランナー育成は、育林から製材、利用までのことを、自分の言葉で、地域のなかで語れる人材となるように、一步踏み込んでやっていただきたい。また、森林の施業プランナー数は現在の養成だけで足りるのか。最初の養成だけでなく、その後もプランナーの仕組みがうまく回るように、体系的に考える必要がある。
- 森林○林業への理解を深めるため、林業士会などの方々が、山に入って林業技術だけでなく様々な活動をされていることを、県なども、もっと広くPRしてほしい。
  - 車を運転中に、森林税ののぼり旗を見かけた。たくさん立てているとのことなので、宣伝を一生懸命にしているということがわかる。
  - 村内の松くい虫被害は、昨年に比べるとかなり拡大している。被害木処理は、当初予算よりも多くの財源をつぎ込まないと対応できない状況で、非常に苦慮している。
  - 松くい虫の被害拡大を防止するには、山の松だけでなく、屋敷林の松などにも注意するよう、さらに広報することが必要である。
  - 森林税が3年目に入って、間伐面積も増え、森林税を充てた森林整備は目に見える形になってきた。県民の皆さんの理解も得られてきているのではないかと感じている。横断幕や桃太郎旗などを森林整備した場所に立ててPRしているので、浸透してきていると感じている。
  - 間伐材を搬出して加工するには、近くに製材所がないといけない。製材所や木材を加工する施設の整備にも手厚い補助をして、地元の木材を製材して使う仕組みをつくることを提案したい。
  - 松くい虫被害対策について、森林づくり推進支援金においては、予防的な対策よりも、被害地の被害木の伐倒駆除の対策を優先するなど、市町村の計画内容を精査して、重点配分をした方がいいのではないかと。
  - 森林づくり推進支援金の計画については、資料に記載のとおり進めていただきたい。
  - 長野県森林づくり指針の改定について、資料には様々な方策が記載されているが、それを進めるための財源、経済的な基盤をどう作り出していくかという観点でみると、森林を中心とした環の中では、なかなか獲得し難い経済構造にある。
  - 森林づくりを、森林に関わる人や産業だけで支えるのではなくて、国民的に支えていく必要性を、前段できちっと整理しておく必要がある。
  - 県内に住んでいる方々が、山（森林）というものに対してどのような思いがあるのかを明らかにして、この指針改定と共に、県民に知らせてほしい。
  - 鳥獣被害の対策、その成果、シカ肉の活用などについて状況を教えてほしい。
  - 木材の利用促進を図るため、ペレットストーブの購入への補助金は出ているが、薪ストーブの購入にも補助金が出てもいいのではないかと。山（森林）を整備するという面からも、薪ストーブの購入を奨励してもよいのではないかと。
  - これからはアカマツの間伐箇所が増えてくる。松くい虫被害防止の関係で、標高800メートル以上での間伐では、材を搬出しなくてもよいのか。
  - 松くい虫被害が現に出ているところ、火事で言えば燃えているところを消さないで、予防の方へ回す財源があれば良いのだけれど、今の乏しい予算ではそれが出来ない状況である。もっと戦略的に予算を使わないと被害拡大を抑えられない。
  - 信州の木で住宅を建てた場合に、補助金が出る事業（環の住まい整備推進事業）について、この制度を知らない工務店が見受けられる。もう少しPR活動を多くやった方がよい。
  - 環の住まい整備推進事業について、小規模な工務店などは、補助金ではなく、柱など現物を支給して、これを使ってくださいという形が一番よい。手続きなどが面倒なのである。
  - 最近、各組織を横断的に連携して、お互いの持ち味を生かして目的を達成する取組が一般化している。森を育て、木材を提供する側と、それを利用する業界との連携をきっちり

とやっていくことである。国産の木材を使用していく企業等の連携に幅を広げていく必要がある。

- 地域材を多く使用する在来工法による家づくりが減れば、大工さんが持っている技術、伝統、文化が廃れてしまう。地域材をうまく利用していけるような方策を推進してほしい。

平成 22 年 6 月 16 日（水） **第 1 回 大北地域会議** （北安曇地方事務所）

**【出席委員：10 名】**

小林 三郎	小谷村長
嶺村 和徳	大北森林組合代表理事
浅見 昌敏	大北木材業協同組合長
川上 起源	大北地区林業経営者協会副会長
香山 由人	大北地方林業研究グループ会長
菅沢 廣人	山林種苗協同組合大北支部長
山内香代子	遊企画
荒山 雅行	荒山林業
西條麻梨子	一般公募委員
金原 昭和	一般公募委員

**【会議事項】**

- 1 「長野県森林づくり県民税」の概要について
- 2 長野県森林づくり県民税活用事業の概要について
- 3 森林づくり推進支援金について
- 4 木育推進事業について
- 5 「森林づくり指針の改定」について
- 6 その他

**【主な意見】**

- 森林づくり推進支援金事業の重点配分枠の中で、森林学習教材の購入として、平成21 年度に購入されている教材は、林業を行っている人には大変参考になる冊子であるが、子供向けではないので、何か他の教材等を検討できないか。もっとイラストが入ったものなどに工夫していただけないか。
- 森林税のハード事業の目玉は90%補助の間伐だと思うが、整備が遅れている人工林の切捨て間伐にしか使えない。木を利用する搬出間伐に使えない。言い方は悪いかもかもしれないが、放置した山をただ掃除するだけの所にそんなにお金をかける必要があるのか。長年にわたり山を手入れしてきた熱心な林家の方からそんな話も聞いたことがある。スタートした2 年間は、道路沿いなどの目に見える場所で実施されたのでいいが、今後は手遅れ人工林が多い、奥山になっていくので、奥山の切捨て間伐に森林税を多く活用していいものか疑問に思います。
- 地域材を使われる仕組みについて、手厚い補助が必要である。環（わ）モデル事業に消費者が入っていない。消費者が何を望んでいるのか、また消費者が地域材を使う必要性を理解しないと循環には繋がらないと思うので、地域材の利用促進を検討するにあたり消費

者を盛り込む必要があると思います。

- 森林整備の団地化を進めるに当たり、不在地主が多いのがネックとなっている。市町村には施業勧告の制度もあるので、森林整備を希望されない方は申し出ていただき、それ以外はまとめて整備して行くような制度を作れば良いと思う。
- 住宅に県産材を使う場合の補助金のハードルが高い、身近な県産材は低コストの住宅でも補助金が受けられるように進めてほしい。
- チップの段階での利活用を検討してほしい、チップボラーを公共事業に使用するなど出来れば良いなと思っています。
- 環境教育の面で、先生が森林に興味がないと子供たちに何を教えていいのか分からないと思うので、信州大学の教育学部があるので、将来先生を目指す学生に、長野県の森林というものに興味をわくような仕組みを作りができれば良いなと思います。
- 屋敷林整備で家の回りの木を伐採したこともあるので、まず関心を持っていただくという面では、自分の足元である屋敷林から整備をしていき、段々山の方に向かっていくというのも一つの切り口になると思う。
- 若い人は、森林・林業に興味がない人が多いので、若い人も来たくなるような場があれば、いろんな意見も聞くことが出来るので、そんな交流の場があるといいと思います。
- 100年先を考えれば、子供たちに何らかの山への関りを持たせるのが必要だと思う。学有林の整備を行ったり、巣箱を作ったりなど。いずれにしても、子供たちが森林に触れることが重要だと思います。
- 生活様式が変わり、山へのかかわりが変わってしまった。今は山へ行く人が減ってしまったので、何とか山へ行く人が増える体制を考えてほしい。
- 県産材を50%以上使用しなければいけないとか住宅に条件が多い、補助金を受けるにも厳しい制限があるので、低コストの住宅でも、補助金が受けられる体制が必要と改めて思いました。
- ペランダは、カラマツの県産材を使うとかの一部の使用でも補助金を受けられる仕組み等が必要だと思います。

平成22年6月16日(水)

## 第1回 北信地域会議

(北信地方事務所)

### 【出席委員：8名】

竹節 義孝	山ノ内町長
高森 壽實夫	北信州森林組合長
桑原 重雄	栄村森林組合長
宮崎 正毅	NPO 法人北信州の森林と家をつなぐ会代表理事
鈴木 久男	みどりの少年団北信地区協議会長
竹節 高四郎	自然公園指導員
佐藤 勝志	北信猟友会
笹岡 洋一	指導林家

### 【会議事項】

- 1 現地調査

- 2 長野県森林づくり県民税活用事業の平成21 年度実績及び平成22 年度計画について
- 3 森林づくり指針の改訂について
- 4 意見交換

#### 【主な意見】

- 木育事業の良さはわかっているが施工面で難しいのではないかと思う。1 年前に計画を立てるには早くに情報をいただきたい。
- 農業高校の全国大会が平成24 年度に須崎市で開催される。後継者育成といった面から何らかの支援ができないか。また、木育事業も高校を巻き込んだほうが有効と思う。
- カシノナガキクイムシの被害が大量に発生し拡大している状況にある。有効利用等はないか。特に大径木のミズナラに多い。
- カシノナガキクイムシ被害で虫の入る前に伐採したい。それだと、被害木ではなくなってしまう。対応等について林業総合センターへ相談してみたい。
- カシノナガキクイムシ被害地は道路からかなり遠く場所が悪く、大径木のため処理が難しい面がある。
- 昔は、それぞれの農家がナラの木をよく使っていたから被害はなかった。今は、薪ストーブ等が普及してきているので、里山整備を取り入れながら、それらに枯れる前に使ってしまうことも大切ではないか。
- カシノナガキクイムシ被害のミズナラの枯損木をフローリングの板材として活用してみたい。大径木を扱うので搬出が課題であり、作業路等の取り組みを予定している。また、平成21 年にオガコに使って見たがキノコの発生は見られた。発生量、種菌に対する安定性が今後の課題である。
- 森林の持つ力はものすごいものがある。漁協関係者の間では、「魚を守るには水を守る」、「水を守るには木を守る」、「木を守るには森を守る」、「森を守るには山を守る」が合言葉となっている。混交林が昨今話題となっているが、混交林施業について県民税を是非投入して施業技術を研究し、子孫のため将来を見据えた「新しい森林づくり」、「新しい山づくり」を是非行い未来の森林づくりに力をいれてほしい。  
(森林づくり指針について)
- 苗木生産者は高齢化してきており、後継者育成は重要と思うが、管内で実際、苗木らしい生産をやっている人は2 人程であるが、採算さえ取れば増えるのではないか。
- 森林のもつ多面的機能を高めるうえで、保安林は重要である。生活環境を支えている保安林の適切な管理を進めていただきたい。
- 林業再生といっても、過去の山からの恩恵を受けた時代を知らなければ林業再生ではない。
- 針広混交林が、どうして必要なのか。生産性をあげるには混交林でないほうが良い。外材に対抗するのではなく、独自の特色をどう出していくかが大事ではないか。
- 主伐を見据えての取り組みが必要で、いかに集約化して低コスト化していくか、また境界の明確化について考慮されたい。
- 森林づくりを真剣に考えていかねばならないが、森林に携わる雇用が遅れていること感じられる

(以上、平成 22 年 6 月から平成 22 年 7 月に開催された 8 地域会議 8 回分)